

マルチン・デ・ポレス

No. 73
2023年 1月

発行人: 志田原 俊城 発行所: 聖マルチン病院 坂出市谷町1-4-13 (0877)46-5195
ホームページ <http://sakaide-martinhp.jp/>

新年あけましておめでとうございます。
新年を迎え、皆様も新たな気持ちでお過ごしのことと存じます。

病院は昨年一昨年と同様に新型コロナウイルスに翻弄された年でした。

特に昨年10月末から11月中旬に院内でクラスターが発生して、予定入院の手術の延期や入院中の患者様のリハビリの制限などを余儀なくされ、患者様およびご家族様に大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。感染対策を再度徹底して再発防止に努めたいと考えています。

とは言え、医療関係者の願いに反してコロナウィルスの新たな変異株は現在進行形で発生しており、ワクチンや過去の感染による免疫を回避して感染を生じているため、コロナ以前の状態に戻ることは容易ではないと考えます。

面会制限は基本的には継続せざるを得ないと思いますが、スマートフォンを用いたテレビ電話でリモートでの面会や患者様とご家族様が両方ともマスクしていただいて2mの距離を離れた状態での対面の面会を行っていますのでご希望があればお申し付けください。

最近の病院の変化としては、脳神経内科専門医の常勤医2名を中心に神経難病センターを昨年11月から立ち上げております。これまで一般病棟で長期療養が困難であった筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病などの国が指定した神経難病の患者様の長期療養が可能になりました。中西讃では唯一の施設として地域の医療ニーズに応えていけるように職員一同となって向上心を持って努力していきます。

また来年度から総合内科研修を終えた内科医師が新たに勤務することが決まっており、今後一般内科全般に戦力の上乗せができて患者様のお役にたてるのではないかと考えています。

皆様にとって2023年が幸せな1年になるように願っております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

病院長 志田原 俊城

病院の理念

私たちはキリスト教の愛にもとづいて生命の尊重、人格の尊厳と平等、病める人々の権利を守る医療を行い、心身の救いを目指します。

私たちは医療にかかわる者としての使命を深く認識し、人格の向上、相互愛、専門職の研究向上に励み、地域医療に役立つよう努力いたします。

聖マルチン・デ・ポレスは、

16世紀に南米ペルーに生まれ、

多くの病人やけが人をやさしく看病した

聖マルチン病院の保護者です。

基本方針

- ・良質で愛のある医療
- ・安全と信頼の医療
- ・地域に密着した医療
- ・質の高い高齢者医療とケア

「マルチン・デ・ポレス」は地域の皆様へ病院からの案内をご紹介します。皆様のご意見・ご要望をお寄せ下さい。



～ 神経難病センター開設 ～

2022年11月より神経難病センターが開設されました。当院の脳神経内科は、2018年4月より神経内科医が常勤するようになり、現在は、常勤専門医2名、非常勤指導医1名の体制で診療にあたっています。中讃地域に専門医が常勤する病院が少ないため需要も多く、外来・入院患者数も増加傾向となっています。

指定難病に認定されている神経疾患の多くは、脳卒中のように急に症状が完成して徐々に回復に向かうのではなく、数ヶ月以上かけて慢性的に進行、あるいは改善と増悪を繰り返しながら段階的に進行する疾患です。症状として筋力低下、歩行障害、嚥下障害、認知機能低下などが進行し、徐々に日常生活に支障を来します。これらは疾患の原因がわかっていないか、わかっているにもかかわらず根本的な治療法が見つかっておらず、治療法があっても高額な医療費や生活費がかかるため国の補助制度が設けられています。2020年4月現在、83疾患が神経・筋疾患の指定難病として認定されています。当院ではこれらの内、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などの患者が入院しており、神経内科専門医が診療にあたっています。また、外来診療では、連携拠点病院、協力病院及び一般病院等と連携して、神経難病の初診から診断に至るまでの期間をできるだけ短縮するよう必要な医療を提供し、難病患者やその家族の意向を踏まえ、身近な医療機関で治療を継続できるよう支援も行っています。

神経難病センターでは、様々な事情で家庭や施設での生活が困難な神経難病患者の長期療養入院を受け入れ、治療、リハビリテーションを行うことができます。神経難病の患者・家族の方々の療養生活がより豊かになるように、診療・介護技術の向上と療養環境の充実を目指して活動していきますので、今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

脳神経内科 青江 真吾

～ 医療安全の取り組み ～



2022年11月20日 ～ 11月26日 医療安全推進週間 今年は各部署ポスターを作成しました。

～ お酒のおつまみについて簡単なポイント ～

年末年始も過ぎ、寒さも本格的になってきたこの季節、酒宴の席への機会が増え、いつもまして飲酒量が多くなっているのではないのでしょうか。

また、寒さ対策のひとつとしてお酒を利用される方もおられると思いますが、その時大切なのは、飲む回数、量だと思います。それから、一緒に食べる「おつまみ」も、楽しく上手に飲むためのはずせない要素になってきているのではないのでしょうか。

今回はそのおつまみについての簡単なポイントを下記に表示します。

- ・たんぱく質食品と一緒に

枝豆や豆腐等、アルコール代謝を高める効果があります。またよく言われるように乳製品も胃壁を保護して、アルコールの急激な吸収を防いでくれます。

- ・ビタミンをたっぷり

カツオや豚肉に多いビタミンBや、野菜に多いビタミンCは酔いの原因であるアセトアルデヒドの分解を促します。

- ・低カロリー、低塩分

×揚げ物は控えてください。

○和え物やお鍋など和風のあっさり、薄味した物をおともに

せっかく飲むのだから「百薬の長」といわれるよう健康的に利用し（出来れば翌日残さない楽しいお酒）寒い冬を乗り越えられるようにしたいものです。

なおアルコールには利尿作用があるので、飲酒後は十分な水分補給に努めてください。

ちなみに以下アルコールのカロリーです。目安にしてください。

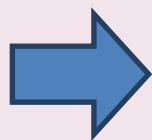
栄養科 古川 初美



ご飯50g
小さい茶碗 軽く 1/2

80kcal

同じカロリーでそれぞれの
アルコール量は右記の通り
です。



日本酒 70ml
清酒おちょこ
約1/2



ビール 200ml
大瓶 1/3弱



ワイン 100ml
ワイングラス
1杯弱



焼酎 40ml



ウイスキー 30ml

～ 永年勤続者表彰式 ～



2022年12月7日 創立記念式典 規模を縮小し永年勤続者表彰を行いました。

今月の一言

この世の最上のわざは何？
 楽しい心で年をとり
 働きたいけれども休み
 しゃべりたいけれども黙り
 失望したいときに希望し
 従順に、平静に、おのれの十字架をになう。

作者不詳

医療相談窓口

医療の安全と信頼、サービス向上を図るために、
 患者様・ご家族様の相談窓口を設けています。

～設置場所～

病院1F 総合案内「患者相談窓口」

対応時間 月・火・木・金曜日 8:00～17:00

水・土曜日 8:00～12:00

アクセスマップ 駐車場案内



AccessMap (アクセスマップ)

